



山本良一(やまもとりょういち)

環境材料学者 東京大学生産技術研究所教授
迫りくる地球温暖化を前に、経済活動や生活スタイルを変えることの重要性を説き、特に産業界の環境技術開発による変革を訴える。委員長を務めるエコプロダクツ2007では、福田首相を案内してエコイノベーションの重要性をアピールした。



『温暖化地獄』

(山本良一著 ダイヤモンド社)

本書p63にもあるように「地球温暖化は地獄の1丁目を過ぎてしまった」というのが山本教授の主張だ。では、その地獄から人類が脱出するためには何をすべきか。この本は、解決のカギとして「エコイノベーション(環境技術革新)」というキーワードを示し、豊富な事例とともにさまざまな提言を行っている。



『温暖化の世界地図』

(カースチン・ダウ/トーマス・ダウニング著 近藤洋輝訳 丸善)

地球温暖化問題はグローバルな環境変化が、地域によって違った形で現れるため、全体像がつかみにくい。この本のように「地図」で見せてくれるとわかりやすい。氷河の後退や海面水位の上昇、淡水への海水侵入の問題なども取り上げられており、『水の世界地図』と併せて読むことで、問題を一望することができるだろう。



『気候変動+2°C』

(山本良一責任編集 Think the Earthプロジェクト編・文ダイヤモンド社)

地球温暖化を原因とする気候変動が世界各地で起こっている。私たちが今のライフスタイルを変えずに生活し、温度が上昇していくと何が起るか。2100年までの温度と環境の変化をシミュレーション画像とともに、わかりやすく説明。未来を変える取り組みも多数紹介されている。



『1秒の世界』

(山本良一責任編集 Think the Earthプロジェクト編・文ダイヤモンド社)

世界中の出来事を、1秒という単位で切り取る斬新な視点で今を感じることができる。1秒間に世界では420万トンの雨が降り、ペットボトル3,500万本分のミネラルウォーターが生産され、汚染された水や食料で5歳以下の子ども48人が下痢になっている。世界は刻々と変化している。

参考文献:『NHKスペシャル 気候大異変—地球シミュレータの警告』(江守正多、NHK「気候大異変」取材班著 日本放送出版協会)、『不都合な真実』(アル・ゴア著 枝廣淳子訳 ランダムハウス講談社)、『Toward Prediction of Environmental Arctic Change』(Wieslaw Maslowski, Jaclyn Clement Kinney, Jaromir Jakacki) 参考サイト:IPCC <http://www.ipcc.ch>



足立直樹(あだちなおき)

サステナビリティ・プランナー

1995年から2002年まで国立環境研究所で熱帯雨林を研究。マレーシアの森での研究生活の後、独立。企業と環境を結ぶ役としてCSRや環境経営などを専門とするが、経歴から連想するイメージとは裏腹にとっても気さく。ブログは「サステナ・ラボ」。



『水問題の重要性に気づいていない日本人—「おいしい水の話」から「酸性雨の話」まで』

(橋本淳司著 PHP研究所)

水は誰のもので、どこからやってくるのか。ボトル入りのミネラルウォーターの謎を探りながら、さまざまな切り口で水問題と水の重要性を説く。水が豊富だと思われている日本も、実は大量の水を輸入しては廃棄している「水赤字国」という著者の表現が印象的。



『川は生きている—自然と人間』

(富山和子著 講談社)

昔から今日まで水だけでなく、さまざまなものを私たちに供給してくれた川。昔の川と今の川を比べながら、昔の人々がいかに川を利用し、大事にしてきたかが、たくさんの絵を交えながらわかりやすく書かれている。川に繋がる森や土の大切さにも言及しており、小学生が環境を学ぶ格好の入門書。もちろん大人が読んでも深く考えさせられる一冊だ。



『雨を活かす—ためることから始める』

(辰濃和男/村瀬誠著 岩波書店)

一番身近な水資源として古くから活用されてきた雨水。その効率的で実用的なため方から、雨水を散水や自宅のトイレで利用する具体的な方法などが紹介されている。この本を片手に自宅で日曜大工をしてみてもいいだろう。本書p78で紹介した墨田区での雨水利用についても具体例が掲載されている。



『子ども地球白書 2006-2007』

(林良博監修 ワールドウォッチジャパン)

アメリカにある世界的な研究機関、ワールドウォッチ研究所が毎年発行する『地球白書』の子ども版。第3章のテーマが「水」。世界の水問題の要点を紹介するだけでなく、マングローブを守る、水政策を見直す、など具体的なアクションの方法が載っている。そのアクションがなぜ必要か、どんな役割を果たすか、詳しく説明されているので納得できる。

参考サイト:郡上八幡観光協会 <http://www.gujohachiman.com/kanko/>
ソウル市 <http://japanese.seoul.go.kr/cheonggye/>
鳥取大学乾燥地研究センター <http://www.alrc.tottori-u.ac.jp>
協力:小林伸行